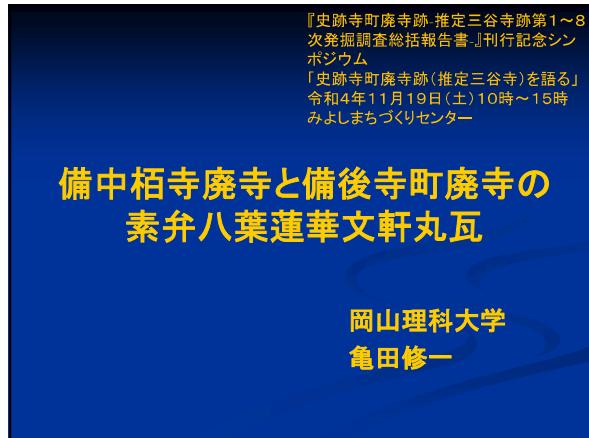


備中栢寺廃寺と備後寺町廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦

岡山理科大学 亀田 修一

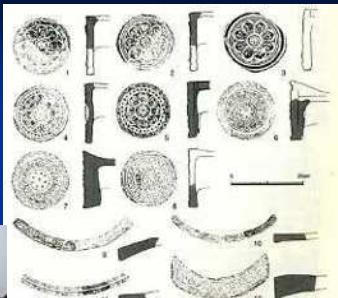


1. はじめに

2. 備中栢寺廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦
3. 備中栢寺廃寺と備後寺町廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦の比較
4. 備中栢寺廃寺と備後寺町廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦の同範関係が語るもの
5. おわりに

2. 備中栢寺廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦

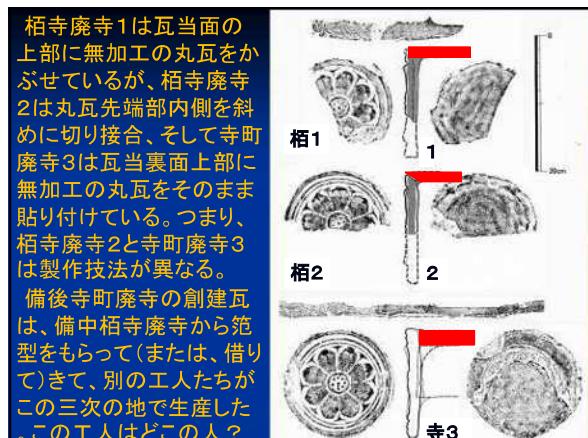
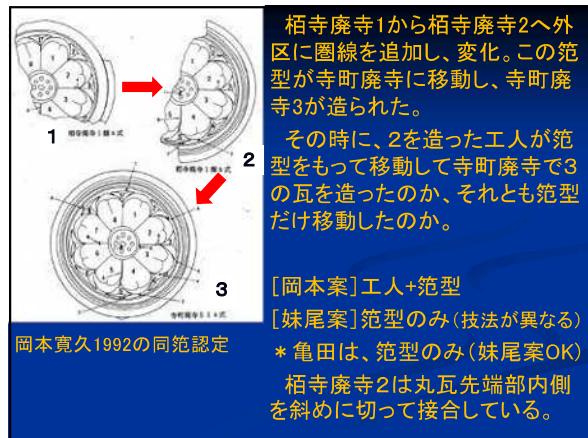
[備中栢寺(かやでら)
廃寺]
・岡山県総社市
・備中国賀夜郡服部郷
・7世紀中頃～8世紀



(湊哲夫・亀田修一 2006『吉備の古代寺院』吉備人出版) (3は寺町廃寺)

栢寺廃寺(南より)







栢寺廃寺(1, 2)と寺町廃寺(3)の瓦の製作技法比較
このように1、2と3の丸瓦接合技法は異なり、寺町廃寺の創建瓦は、栢寺廃寺から範型をもらって(または、借りて 以下、「借りて」で説明)、別の工人たちがこの三次の地で生産した。

4. 備中栢寺廃寺と備後寺町廃寺の素弁八葉蓮華文軒丸瓦の同範関係が語るもの

(1) 寺町廃寺創建瓦はだれが造った?

・備後では、寺町廃寺に確実に先行する瓦の詳細は不明。安芸まで広げると、三原市毘沙門山下遺跡出土軒丸瓦が7世紀前半まで遡り、周辺で最も古い。しかし、畿内系の船橋廃寺式で、文様は異なり、丸瓦接合技法も無加工の丸瓦を瓦当上部に被せるもので寺町廃寺創建瓦とは異なる。つまり、備後や安芸には寺町廃寺創建時の瓦造りに指導者として関与した人物はいないようである。

・備中では、秦原廃寺と末ノ奥窯跡群の瓦が7世紀前半まで遡る。ただ、秦原瓦は丸瓦先端部に接合用の細いキズをつけており、寺町廃寺創建瓦とは異なる。末ノ奥瓦は丸瓦先端部内面を斜めに1回ケズり、栢寺1類bと類似するが、寺町廃寺創建瓦とは異なる。

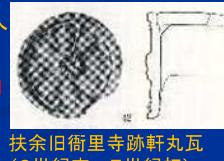
・備後・安芸・備中は、寺町廃寺創建瓦との関係は不明。

そこで

a: 百済の禪師弘済(くさい)自らが多少瓦造りの知識があり、範型は備中栢寺廃寺から借りてきたが、実際の瓦造りは自らが周辺の人々を指導しながら製作した可能性

b: 弘済とともに渡って来た百済の人々の中に多少瓦造りの知識を持つ人物がいて、範型は栢寺から借りたが、彼らが造った。→百済では寺町廃寺創建瓦と同様の技法の瓦は、(文様は異なるが)扶余王宮近くの旧衙里寺跡でみられる。

c: 猥内から寺造り、瓦造りなどの工人を呼んでくる。「金丹など」購入に都に行つたときに依頼?。法起寺式伽藍配置は畿内系であり、少なくとも畿内の技術や情報は入っている。

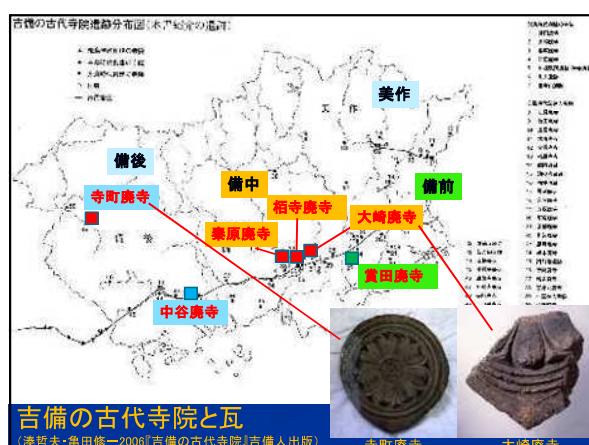




(2)なぜ、創建瓦の范型は備中栢寺廃寺からなのか。

* 伽藍配置・基壇造り・瓦造りは、百濟や畿内からの工人の関与が考えられるのに、なぜ、范型は備中栢寺廃寺から?

- a. 備中と備後で古くからの関係があった?。これも含めて栢寺廃寺造営者も白村江の戦いに参戦し、三谷寺造営者とともに戦い、栢寺廃寺造営者が先に帰国し、寺院造営を始め、一つのお堂などができる段階に、あとから戻ってきた三谷寺造営者に范型貸与などの援助を行った可能性
- b. 栢寺廃寺造営者が「賀夜郡」の有力者であったことは間違いない、この周辺で5世紀代以降の朝鮮半島系考古資料が多く確認されていることから、造営者が5世紀代以降の加耶系渡来人の子孫、またはそのような渡来系の人々が周辺に多くいた。三次地域も近年の研究により、古墳時代から朝鮮半島との関わりが深いことがわかってきており、備中の豪族や渡来系の僧・人々との関わりが深かった?



5. おわりに—寺町廃寺・栢寺廃寺の瓦で何を語ることができるか
* 備中賀夜郡と備後三谿郡の豪族たちや渡来系の人々が相互に関係?

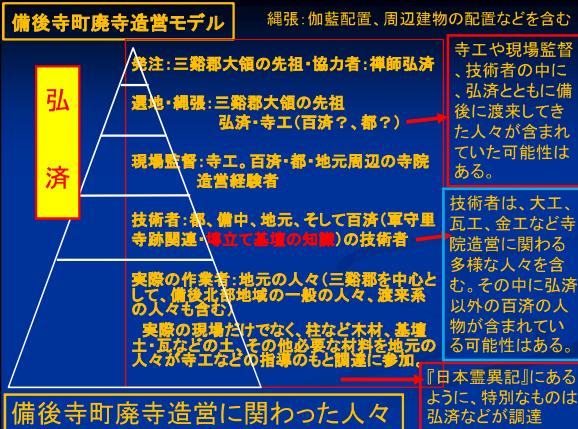
* 栢寺廃寺の僧などと三谷寺の僧弘濟が関わる?

* 寺院造営の技術的な面で、僧・渡来人ネットワーク?

* 仏教・寺院造営技術の伝播に中央→地方だけでなく、地方→地方もある。また、朝鮮半島→日本列島の地方も。いろいろなレベル、多様なルートで造営技術や造瓦技術などが伝播、そして展開→寺町廃寺研究はこのような多様性研究に役立つ

付:栢寺廃寺の瓦の断面中央部に黒い色の部分があり、約3

km離れた末ノ奥窯跡群で生産 総社市末ノ奥窯跡群の素弁八
葉蓮華文軒丸瓦:断面の中が
黒色



[おもな参考文献]

- 岡本寛久1992「『水切り瓦』の起源と伝播の意義」近藤義郎編『吉備の考古学的研究』下、山陽新聞社
- 亀田修一2006『日韓古代瓦の研究』吉川弘文館
- 国立扶余博物館2008『百济王興寺』
- 国立扶余博物館2009『百济伽藍に込められた仏教文化』
- 妹尾周三1999『広島の古瓦』脇坂光彦・小都隆編『考古学から見た地域文化』溪水社
- 奈良文化財研究所2002『飛鳥・藤原京展』
- 広島県立歴史民俗資料館1998『ひろしまの古代寺院 寺町廃寺と水切り瓦』
- 松下正司1969「備後北部の古瓦」『考古学雑誌』55-1
- 松下正司1993「水切瓦再考」『考古論集』潮見浩先生退官記念事業会
- 渡哲夫・亀田修一2006『吉備の古代寺院』吉備人出版
- 三次市教育委員会2022『史跡寺町廃寺跡』
- 村田晋2018「広島県」中国四国前方後円墳研究会第21回研究集会(岡山大会)実行委員会編『中期古墳研究の現状と課題Ⅱ～古墳時代中期の交流～』